

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業・研究への支援

「ギャンブル依存症からの回復のための社会支援方策の実践と研究」事業

依存に苦しむ人の回復支援に長く取り組んできた団体がギャンブル依存症者に特化した支援方法や体制を構築

長年、アルコールや薬物依存に苦しむ人の回復支援を行うなかで、最近、パチンコ・パチスロに依存（のめり込み）している人についての相談が目立つようになってきたと話す支援団体が、これまで提供してきた依存者へのプログラムをギャンブル依存者へ特化して適用するための連続講座、対策ツールの開発、体制づくりに乗り出した。



ギャンブル依存問題への無料相談サービスを告知するチラシ

パチンコ・パチスロの依存症者からの相談の増加に対応するための事業着手

NPO法人「ジャパンマック」は東京都区内、川崎市、北九州市、福岡市に入所施設および通所施設を設け、アルコール依存症のほか、薬物、ギャンブルなどへの依存で苦しむ人の回復を支援する活動を行っている民間団体である。支援スタッフの9割以上が依存症の当事者であり、アルコール依存症からの回復手法として知られるアルコールクス・アノニマス（AA）による12ステッププログラムと、仲間同士が支え合うピアサポートを根幹に活動しているが、これまで数多くの依存症者の相談を本人や家族などから受けるなか、近年は、ギャンブルとりわけパチンコ・パチスロに依存している人についての相談が増えてきた。

同法人では、自らの事業所が行っているプログラムがギャンブル依存症者にも有効である場合が多いと考えていたが、そのプログラムになじむ前にギャンブルが再発してしまう方が少なくなかったため、関係団体などと連携しながら、より組織的、体系的に行っていく必要性を感じていた。

そのため同法人ではPOSCの助成を活用して、外部の専門家の助言を得ながら、新たな相談、支援活動を行いながら支援体制の構築を進めたり、専門家等を招いて会議を開催したり、支援に必要な情報や図書などの収集や各事業所への配備を行ったりするなどして、ギャンブル依存症者に特化して、その有効な回復支援の方法と体制を構築する事業に取り組んだ。

個別相談や連続講座、支援キット開発で社会全体で依存症問題に取り組む

この事業は、令和4年度までの2か年にわたる事業として進められているが、これまでに関東圏の事業所に通所する利用者でギャンブルに問題がある方に対して、公認心理師や精神保健福祉士の相談員2名による個別面談を実施した（2名でのべ38名の相談対象者）。また、広報事業として、外部の専門家を講師として招き、「依存症からの回復について考える」という連続講座を参加無料のオンラインセミナーの形式で9回にわたり開催したが、これには毎回100名から200名を超える参加者が視聴した。さらに支援活動を円滑的、効果的に進めるため、早稲田大学大学院人間科学研究科行動臨床心理学研究室と共同で認知行動療法に基づく支援キットを開発した。これはすでに試行実施を終え、令和4年度に該当者への適用と効

果検証を行っていく予定である。

こうした事業を進めるなかで、同法人では、「ギャンブル依存症に陥った人は、しばしば家族など周囲の生活を困窮させ、ときには刑事事件を惹起して、本人および家族の人生をどん底まで転落させてしまいます。しかも印象として、アルコール依存症など他の依存症に比較して、ギャンブル依存症の人には成育史、生活基盤において大きな問題がなかった普通の人々の割合が多く、幅広い範囲の人がなってしまう病気であると感じます。それだけに、病気の側面を本人や周囲ができるだけ早く認識し、悪化防止や回復支援につながるような仕組みが必要です。このことは社会全体の変化を要することですから、関係団体と協議し、取り組みを社会全体に広げていくことが重要」だと話している。



参加無料のオンラインセミナーを告知するチラシ



助成団体:特定非営利活動法人 ジャパンマック

<https://www.japanmac.or.jp>



従来よりも適切な支援活動ができる手応えを感じています

当法人の事業所の利用者の多くはアルコール依存症の方々であるため、私どもは近年急増するギャンブル依存の方々への対応策を抜本的、組織的に構築し直す必要がありましたが、このたびの助成はそこに踏み切るきっかけとなり、また取り組みを進めるためのネットワークの幅も広がりました。

特定非営利活動法人 ジャパンマック
代表理事 伊藤 達雄さん